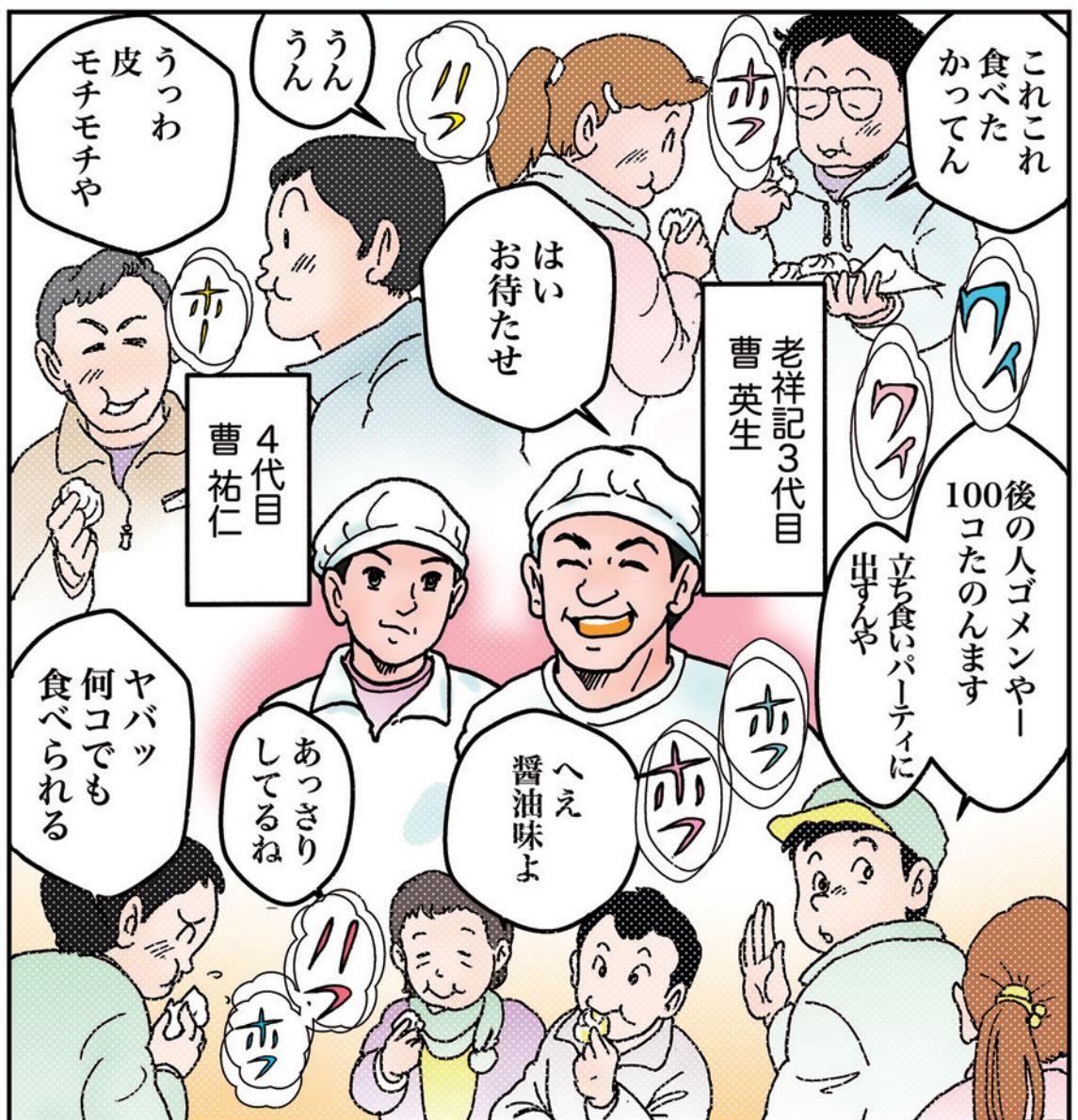


# 老祥記物語

豚饅頭のお話



—神戸・元町・南京町—



今や  
コンビニでも  
買う事のできる  
豚饅

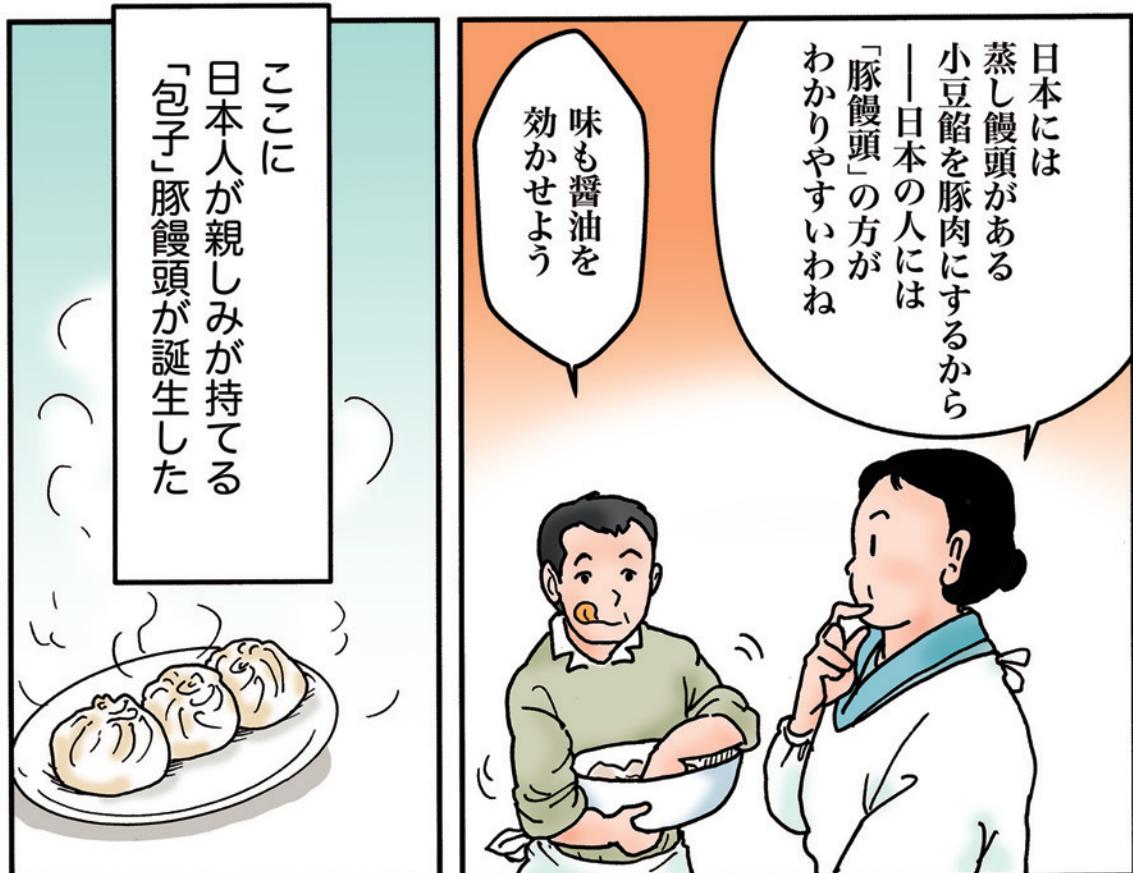
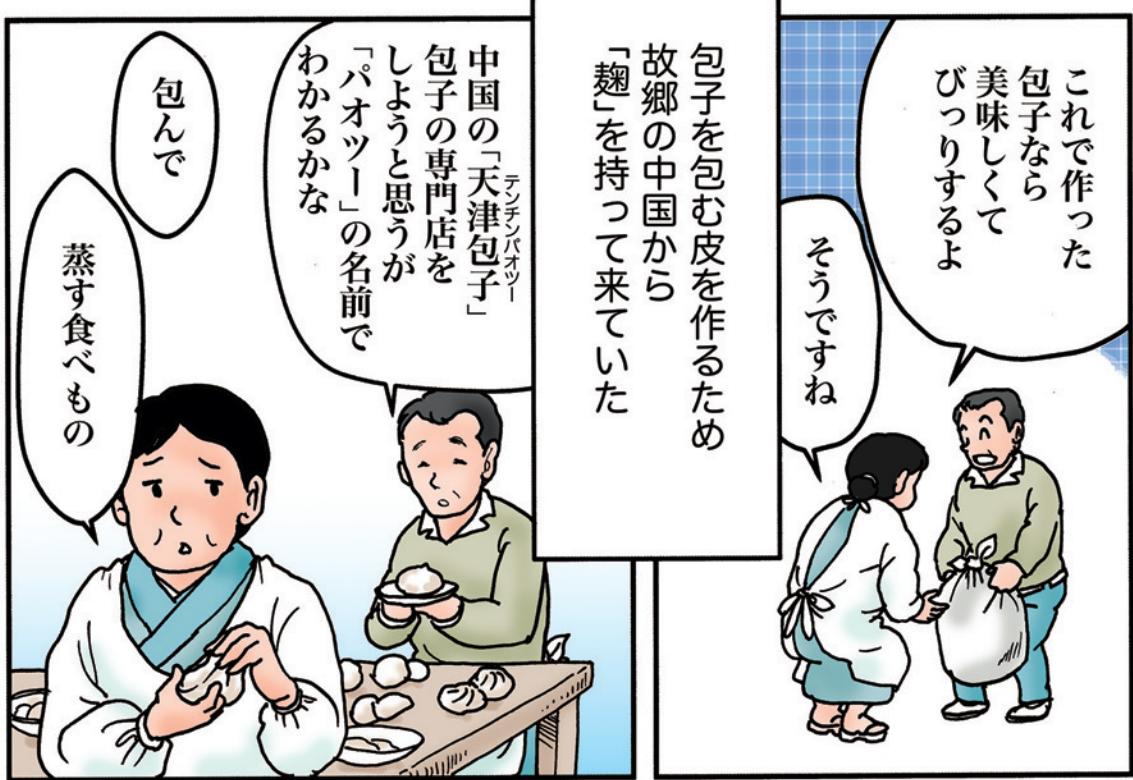
他では  
食べた事が無いよ  
こんな豚饅は

実は  
老祥記が作るまで  
日本には豚饅頭は  
無かった

1915年 老祥記の  
初代 曹松琪は妻の千代とともに  
この地に降り立った

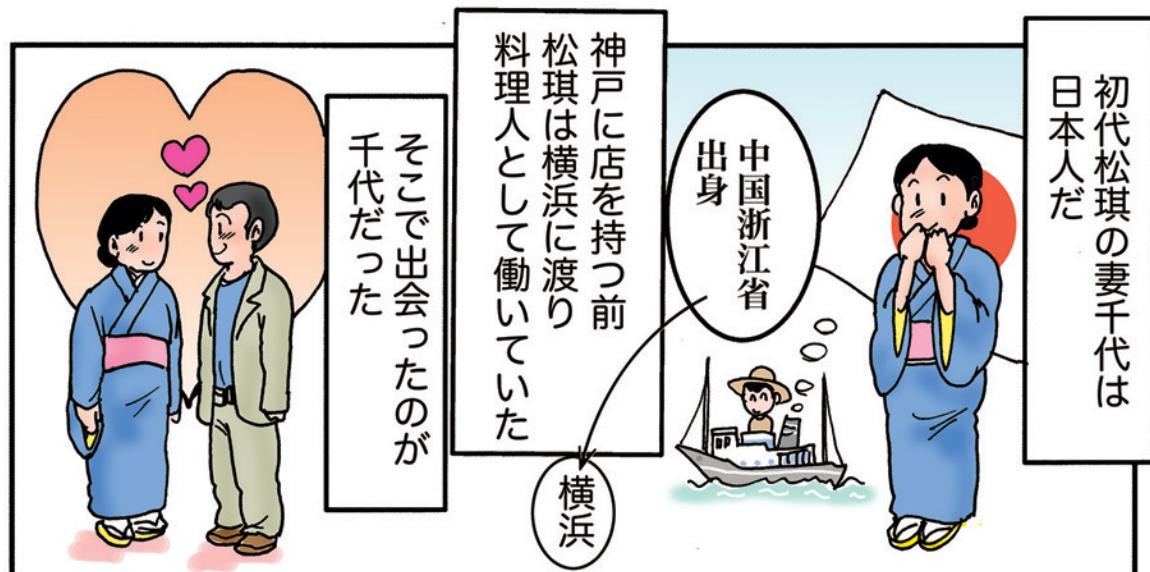
神戸・  
南京町

中国上海





初代松琪の妻千代は  
日本人だ



戦前の老祥記は  
中国船員の  
サロンのようで  
にぎわっていた

あ～家に  
帰ったようだ  
のんびりできる

ついさつき  
だよ

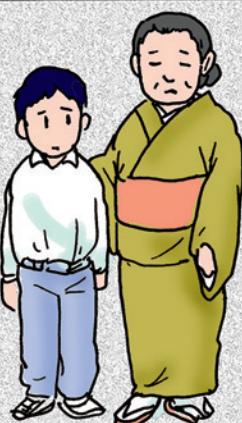
今日の船で  
着いたのかい？

ウイ

20コは  
いい  
できたよ

アラ？

しかし  
松琪は体が弱く  
2代目となる  
穂昇12才の時に  
亡くなってしまう



なんだい  
もめごとか  
やめな!!

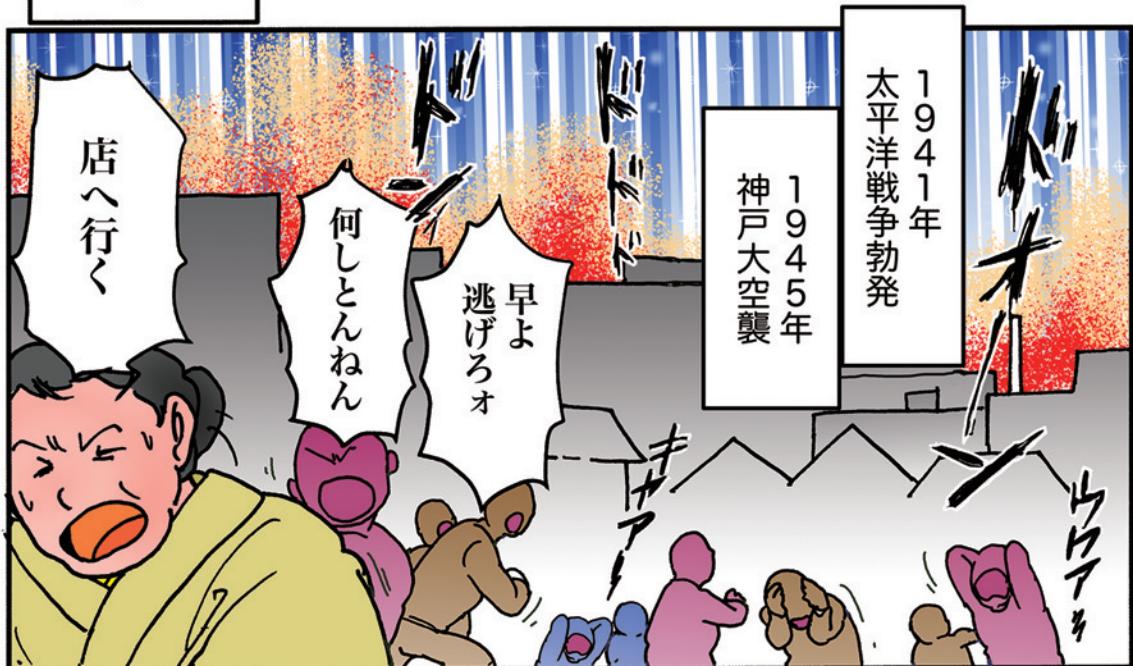
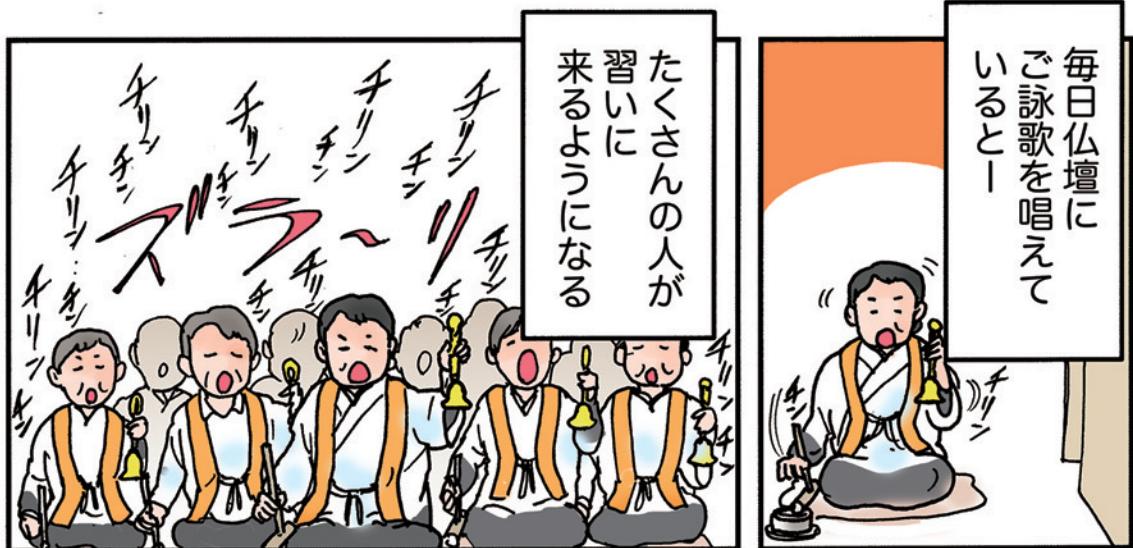
ケンカだ

その頃の南京町は  
活気に溢れ一すぎていた



姉御肌で  
南京町の「ドン」的な  
存在であった

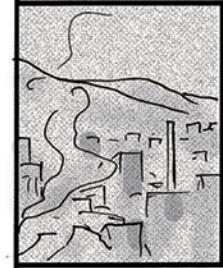




これ!!  
これだけは  
お父さんの「宝」  
老祥記の命!!

松琪が持つてきた  
「麺」は千代により  
戦火から守られたり

神戸の街は  
南京町は  
焼け野原と化した



2代目穂昇とともに  
千代は豚饅頭を作るよ  
だいじょうぶ  
「麺」があれば  
前と同じ  
老祥記の  
豚饅頭は  
作れるよ

さあ  
おいしいよ



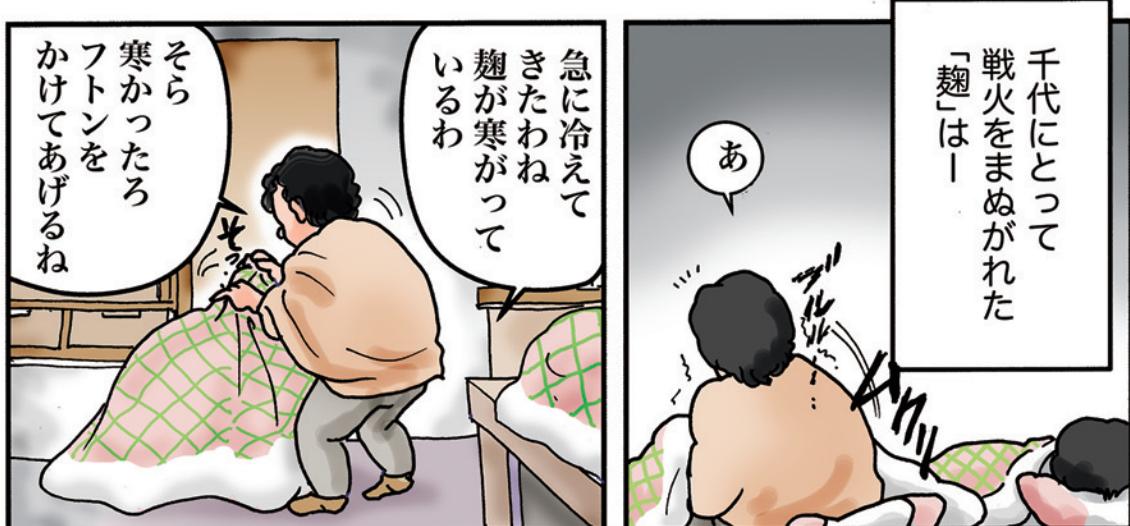
しかし戦争が終わると  
多くの中国人は帰国し  
変わつてアメリカ兵相手の  
外人バーが急増し  
町の姿は一変してしまつ



そんな  
2代目穂昇は  
「パパ」と呼ばれ  
みなに慕われる  
人物であった



千代にとつて  
戦火をまぬがれた  
「麴」は一



穂昇の妻  
玲子によつて  
子供のように  
守られていた

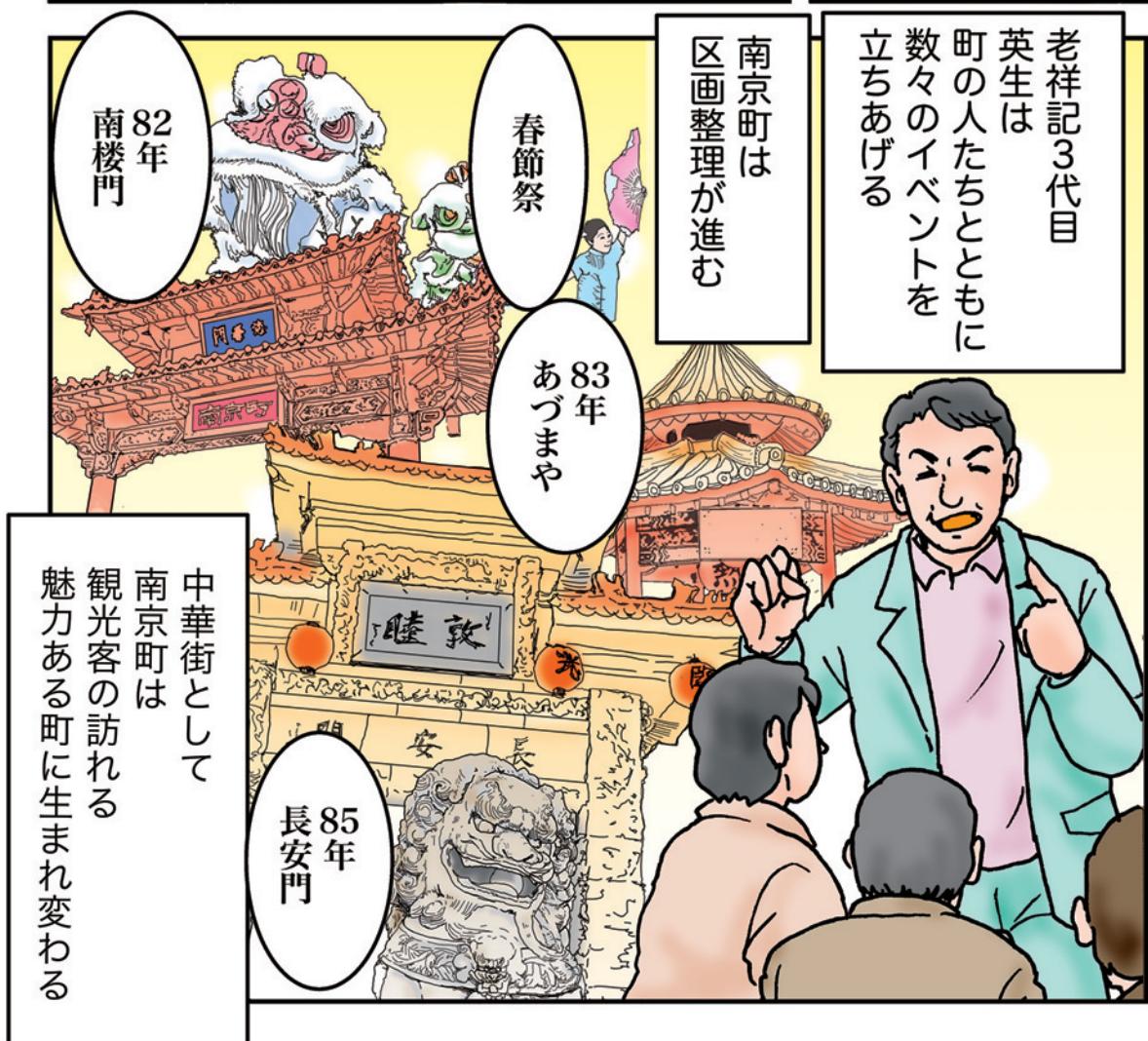
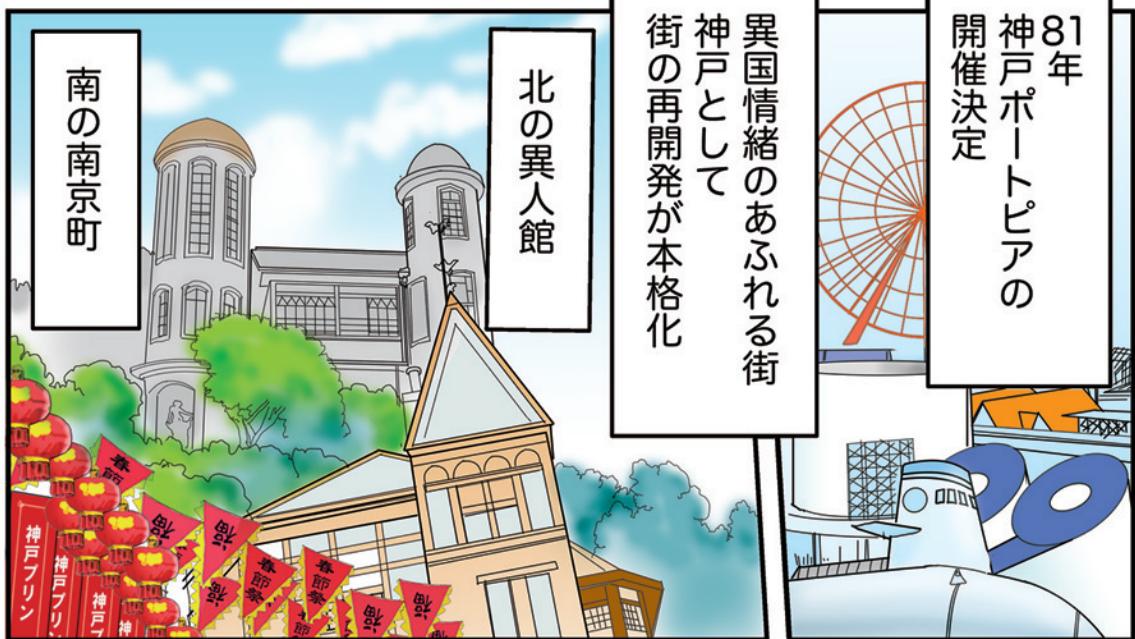


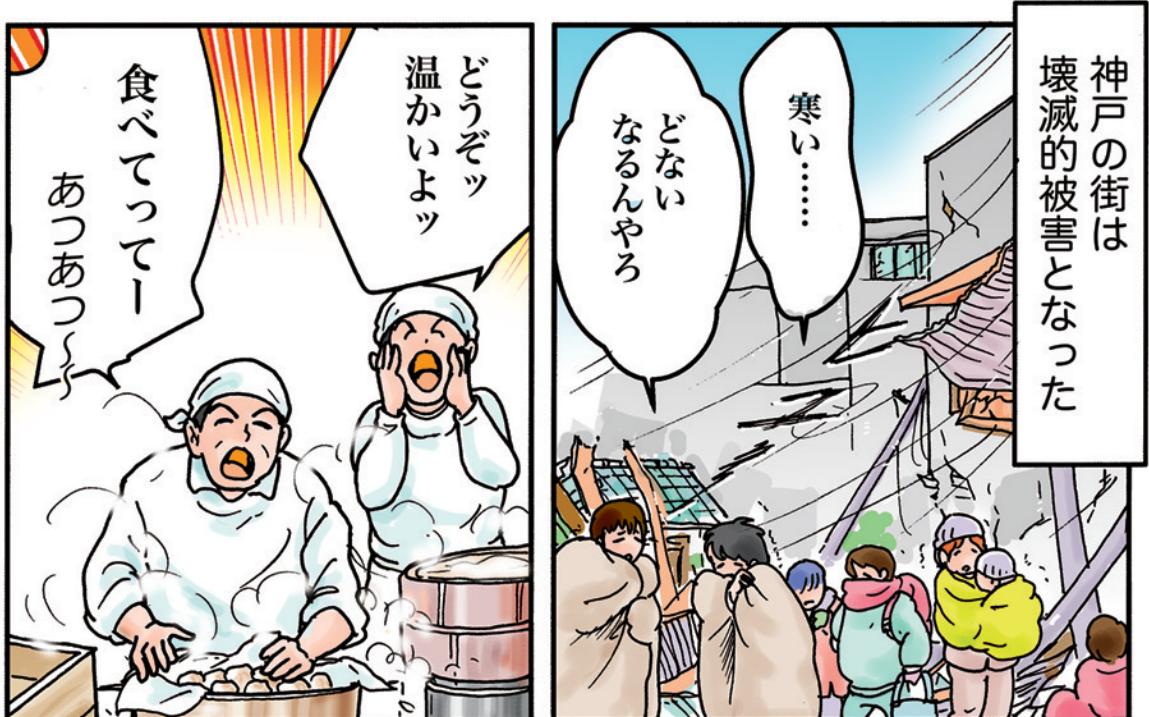
え?!  
南京町?!











南京町では早急に  
無料で炊き出しを行つた



復興した南京町に  
今日も変わらず  
豚饅頭「老祥記」の  
前には  
行列が絶えることは  
ない



変わらぬ声が聞こえる

やつぱ  
うまいわ  
老祥記の豚饅頭は

そして4代目  
祐仁

3代目英生

